



令和2年7月
＝盛夏号＝
啓成公民館
☎33-9075

啓成公民館創立五十周年

記念事業に向けて

啓成公民館 館長 秋田 健一

六月。ようやく各々の同好会や教室が再開されるようになり、この啓成公民館にも活気が戻りつつあります!!ある合唱団も活動開始ということ、二階の集会室から久しぶりの歌声が聞こえてきた時には一瞬目頭が熱くなりました。三月の全国的な自粛以来、三ヶ月ぶりのことです。

ただ、『コロナ禍』は、良くないことばかりではありません（あえて、そう考えましょう）。ポジティブ（プラス思考・前向き思考）に考えれば、良いこともございます。公民館関係者の何人かにお尋ねしたところ、次のような言葉をいただきました。

- ・ 家での時間が増え、気になっていた片付けものが出来た。
- ・ 普段見られなかった映画ビデオなどが、たくさん鑑賞できた。

- ・ インターネット上で、ライブ演奏などが無料で視聴できた。
- ・ 外食や飲み会が随分減ったので、金銭的に節約ができた。

そして公民館では、来年度の五十周年事業に向けての準備期間として、その作業が進められるという点で助かっております。

その五十周年事業ですが、内容は大きく二つ。『式典行事（来年度の十一月中～下旬頃を予定）』と、『五十周年記念誌（令和三年度末に完成予定）』です。特に、記念誌作成が大変だろうと考えております。

活動の資金としては、各自治会からの「協力助成金」と、米子市からの「ふるさとの歴史保存継承事業の補助金」を見込んでおります。その他、寄付金受付も次の春頃に行う予定です。記念誌は、一冊二千元ぐらいになりそうです。



すが、今年の秋頃から希望者募集をしたいと考えているところです。

実行委員会の中心スタッフは、次の皆様です。実行委員会会長（前自治連合会会長の大西昭彦さん）、同 副会長（公民館長の秋田健一）、総務

部（部長に、現自治連合会会長の田村保之さん、副部長に田子整さん）、記念誌編集部（部長に文化部の角田和久さん・副部長に野村達巳さん）。

この他、事務局（角田次代さん・田村美美子さん・秋田治美さん）。スタッフは少数ですが、啓成地区の全ての皆様には「協力者」として応援して頂きたいと思っております。各種調査や原稿依頼など、お声が掛かりましたら是非ご協力をお願いいたします。

なお早速ではございますが、啓成地区の懐かしい写真や記事などございましたら、月刊の『かわら版』に提出の要領などを記しておりますので、一枚ずつでもお届けいただければ大変うれしく存じます。お知らせに併せ、この二年余りのご協力を重ねてよりしくお願い申し上げます。

自治連合会会長に就任して

富士見町二丁目自治会

会長 田村 保之

令和二年、何と言うことでしょうか。この度啓成地区二十六町区の自治連合会会長という大役をお受けすることになりました。地域の皆様のお力添えをいただきながら、自治連合会のリーダーとして微力ながら務めさせていただく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私こと、富士見町二丁目の自治会長をして十三年。自治会の役員、町民の皆様のご理解、ご協力あつての月日であつたと思つております。自治会員数は、当時の約半分に減り、児童数も大幅に減少しております。空き家も多く、ご近所とのお付き合いもままならぬ、という感じです。啓成地区に於いても、自治会加入世帯も減少、今後各自治会が連携、協力し合うことがより必要になると感じています。啓成小学校も今年度より東保育園との建替え併設工事が始まりま

す。啓成小学校は、私自身としても子ども達も学び、育てていただいた学校ですので感慨深いものがあります。

そして啓成公民館も来年度、令和三年度には創立五十周年を迎え、記念式典・記念誌の発行など多くの行事が控えています。それには地域の皆様のご協力が欠かせません。どうかお力をお貸しください。それから今一番気になっている事。朝から晩までコロナ、コロナ。三密だ、やれクラスターだ。皆様も大変な思いをされていることでしょう。収束が見えない状況ですが、明るくポジティブな気持ちで一緒に乗り越えていきましょう。公民館のスローガンであります『明るいまち 元気なまち みんなのまち啓成』を合言葉に、皆様とご一緒に力を合わせ、すばらしい地域づくりをしてまいります。



新型コロナウイルスとパソコン教室

住之江自治会

会長 細田 侃 まこと

私は最近パソコン教室に通っている。きっかけは、パソコンの体験会に参加。少人数で楽しく学べることと、自宅パソコンの操作で困った事があり、基礎から習っておきたかったのでタイピングが良かった。授業では、教本を見ながらパソコンを操作するが、今までの操作の違いや、知っておくと便利な情報もすべて通うのがおもしろくなってきた。また、二時間の講義の途中、疲れが出る頃にコーヒータムがあり、話が盛り上がるって休憩時間が過ぎることも。

ところが、三月頃から段々とコロナ感染拡大の影響があり、教室もマスク、消毒等を実施。その後近隣で感染者が出たことから三密による感染防止で教室が休講となった。楽しみにしていた時間が無くなり、どこか穴が空いたようだった。幸いそれ以上感染者が出なかったの、三密対策の上連休明けから教室が再開された。現在、

私は新型コロナウイルスに負けないうよう元気に通っている。

町内をきれいに

博労町三丁目2区自治会

会長 岩田 幸子

新期自治会長になって、何を一番初めにすればよいのか。まずは一斉清掃。四月十九日(日)に予定していましたが、新型コロナウイルスのため中止となり、至急回覧をしました。

でもひと月経った頃、雑草は伸び放題。「これではいけない」と皆に声をかけて、会員の少ない中、五月二十四日(日)八時三十分から九時まで行いました。

境線の富士見駅の当たりから百メートル位草刈機で刈り込み、とても歩きやすくなりました。その後、空き家になった市営住宅廻りをきれいにすることが出来ました。



地域の天災は

忘れた頃にやってくる。

日ノ出町二丁目自治会

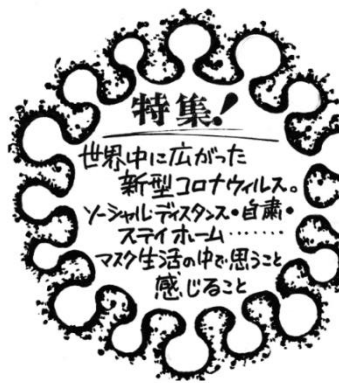
会長 長谷川 博幸

Ｕターンして十一年目になりましたが、約七年間真面目に在宅勤務をしていたので、ステイホームはそれほど苦痛ではありませんでした。関東は地震が多いので、関西に就職して阪神淡路大震災の被害に遭い、在宅勤務中の東京出張では東日本大震災に遭い、会議室の椅子の上で余震に揺られて一晩明かしました。災害に縁のある私ですが、コロナに関してはＵターンして幸運でした。

しかし、今年度自治会長に任命される直前からコロナ禍は始まり、自治会総会が書面議決となり、役員班長会も公民館使用不可となりました。新班長宅を訪問して、担当をお願いし、資料を配布しました。会議が開催出来れば、その場で決めることが出来ますが、普通に出ていたことが急に出来なくなることは辛いことです。友人夫妻や自治会の方々と早く普通に飲

談したいものです。

最近では、ぼやいていても仕方がないので、一日一日を楽しく過ごし、地域に貢献出来ればと思う次第です。



コロナウィルスに

関して思うこと

角盤町二丁目下区自治会

会長 太田 紀子

新型コロナウイルス感染症の広がりです。予想を越えた事態を向かえています。誰もが予期せぬことで戸惑い、焦り、不安を感じていることと思います。まだまだ終息が見えないコロナウィルス。私達の身の回りの生活は強く影響を受けています。

我が町内やよい跡地での「地ビールフェスタ」、高島屋東館のリニューアル



による各施設の開設で賑わいを感じていましたが、コロナの影響で、人の動きもなく、かつて見たことのない光景に唖然としました。

今、緊急事態は解除しつつも、外出時のマスク着用、手洗いや消毒、換気などが私達に出来る唯一の予防方法なのです。コロナウィルスで基本的なこと「三密」は私達が守れば回避出来ると思います。今しばらくは自粛も必要であります。今まで当たり前だった生活が一変し、普通に出ていたことの「ありがたみ」を感じるようになりました。一日も早くマスクの要らない、人とのふれあいが出来る穏やかな日々が戻ってくることを願うばかりです。

自治会長と

男の料理教室

角盤町二丁目自治会

会長 増田 英

まさる

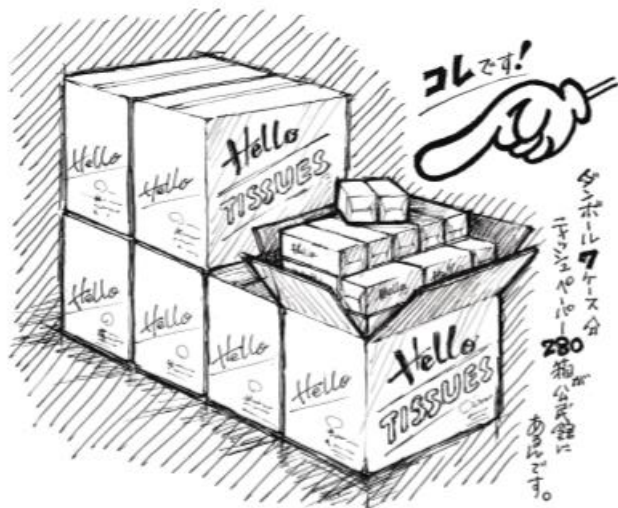
二期四年間自治連合会長をされた大西昭彦さんが、自治会長を退任され後を引き継ぐことになりました。角盤町二丁目自治会の増田です。よろしくお願いいたします。

当自治会では、毎年「ふれあいの里」前庭の桜が満開時に、花見会を開催しておりますが、今年はコロナウィルス感染症対策の自粛行動で中止にしました。また、公民館でもたくさんの方々が中止になり、世の中の自粛ムードに押し流されないように、手洗いとアルコール消毒などの感染予防対策を行い乗り切りましょう。

公民館の中に「男の料理教室」という会があり、会計と会員の連絡係を担当しております。

料理教室の開催は、講師の先生に来ていただき、季節ごとの材料を使いわいわいがやがやと楽しい雰囲気です。料理をし、美味しく食べる活動をしています。会費はありませんが、森田先生へのお礼と材料費の実費を負担していただきます。料理に興味のある方は是非参加してください。





新型コロナウイルス感染自粛の中で 在宅員として思いつくこと

啓成地区在宅福祉員会

会長 増田 裕子

令和になり、在宅福祉員のボランティア活動は、友愛訪問から見守り活動に名称が変わり、令和元年は高齢者世帯に品物を届けて安否確認を行う活動を七回行いました。令和二年も、三月に配布する品物の準備も出来、あとは配るだけだと思っていた矢先、コロナウイルス感染拡大予防のために国を挙げての外出自粛要請が発令され、電

話での安否確認の対応へと変更になりました。電話のみの活動となると「電話番号がわからない」「電話に出てもらえない」などの心配の声がありがりました。

私達の活動は、出来ることには限りがありますが、地域の皆様に少しでも安心してもらえるために「マスクをして、距離を置いて、安否の確認をすることも出来るのでは」と話し合いました。私達、在宅福祉員は、家庭を訪問して元気なお顔を拝見し、笑顔で接していただけることが一番嬉しいです。これから在宅福祉員は出来ることを精一杯活動したいと思っています。

「コロナ」で学んだこと

啓成地区保健推進員会

会長 内田 栄子

「三密」も「ソーシャルディスタンス」もコロナウイルス発生で私が初めて耳にした言葉だ。ITの会社に勤める息子は東京に単身赴任中で二か月以上在宅勤務を経験した。ネットワークのし易い職

種だが「オンオフのけじめがつきにくく迅速な連絡や連携を持つには、やはり顔を見て共に働くのが良い」と言った。ただ会社は設備や勤務時間の節約が出来る在宅勤務を今後取り入れていくそうだ。コロナを機に働き方も変わっていくことだろう。

私は花屋の事務仕事をしている。祝い事やイベントの中止が相次ぎ、売り上げは下がっている。営業自体が出来ない職種も多く、コロナが終息しても経済の低迷は否めない。

それでもリスクを背負って医療に従事される方々、私達が生活するために働いてくださる大勢の人またそんな人達に感謝の気持ちを様々な形で表わす優しい人々もいらっしゃることに感謝を受けた。暗い時にこそ助け合いが必要なこと、健康は何より大切だとも痛感した。



コロナからの再生！ひまわりプロジェクト in 米子

新型コロナウイルスにより、私たちの社会も生活も、大変な脅威にさらされています。感染への不安のみならず、未知のウイルスへの恐怖感と、先の見えない閉塞感による大きなストレスが、私たちの心身の健康を蝕んでいます。

私たちは、一刻も早くこの現状を打ち破り、正常な社会生活を取り戻さねばなりません。

そのためには、まず、みんなが気持ちにゆとりを持ち、明るく前向きに行動することが大切です。啓成地区自治連合会・啓成更生保護女性会・啓成公民館は、「ひまわり」で米子市民の気持ちを明るくしていくための取り組みに賛同しています。